

図書館としての方策

沼垂・舟江図書館へ来る利用者は多く、試験期には学生で満員になり座席が不足する状態である。来館者だけを対象にする時はこれでよくいつていると思うが、地域全体に目を広げてみると、利用者は16%にすぎない。従って、利用者は84%になる。市立図書館・地域の図書館としてこれでよいであろうか。これの未利用者（潜在利用者）の開拓こそは全国的課題であり、新潟市の図書館としても対応せねばならない大きな問題である。

その理由としては

- 仕事が多忙で行く時間がない • 同じ条件の人でも本を借りに来ている10年以上も継続して借出券を利用している人が相当数ある。
- テレビの方が気楽で面白い • 本を読む味は別の楽しさがある。
- 自分で本を買って家に合わせている • 一度読めばよい本を買うことは無駄であり、図書館からは無料で借りることができる。
- 本を読むのが好きでない • 喰いす嫌の人もある。
- 図書館へ行ったことがない • 一度図書館へ足を運べば次からは気易く足が向くものである。そして本を手に入れば誰しも読もう、見ようという気持ちがおきるにちがいない。

どうやって図書館へぶか

- 1 図書館は来館者を待ただけでなく、来てもらうように出向かねばならない。
- 2 図書館へ行く機会をつくってやる
映写会、講演会、座談会、展示会等の行事を計画する
しかし単なる行事でなくて図書館へ結びつけることが必要である。
- 3 時と機会を有効にしてPRをつづける
- 4 地域の人とのつながりを更に深めて 読書や諸行事に気易く来てもらうようにする

小中学生を育てる

- 大人に読書をすすめても実現は難しい。子供に図書館に対する利用親密感を深めさせて、子供を育てていくようにしたい。
- 子供向の行事をひらいて足を向けさせ 楽しい図書館として親しんでもらう。

本を届けること

- 多忙等で図書館へ来れない人には届けてやるのが最良の方法であるが
- 回数回でも本を持って廻れば 本館書架の新刊書が少なくなつて 益々来館者に不評をもたられることになる。
- 現在の私買から2名が巡廻に出ると これまでの事務は難しくなる。

今後の方針

- 1 私買は図書館業務に対する研修を深め 運営方針達成のために信念をもつて活動する。
- 2 未利用者の開拓につとめる。
- 3 学校、地域、公民館と連繫を密にする。
- 4 新しい読書の充実をはかる。来館者は新刊書が魅力だという。
- 5 今年一年は巡廻進出よりも 本館の充実と地域人の図書館認識と読書の意識を高めることに努力する。
- 6 読書サークルの助成と 家庭読書の振興には強い必要性を考えている。

1966. 11.